

# ファクターが業務を効率化します。 可視化によって生産性向上をサポート。

ファクターは創業以来、ICTを駆使したシステム化により紙器段ボール製造業における生産性向上をサポートしてきました。すでに製造業を取り巻く環境はボーダレスとなり、多くの企業がさらなる市場競争の激化に備え、収益性の改善に取り組み続けています。製品の品質改善や、生産の省力化などは製造技術の革新と併せてその最たるものであり、企業の発展には欠かせません。深刻化する人手不足を解決する手段としても最先端ICTの活用は注目されています。ファクターでは製造業務における情報資源を「可視化」→「見える化」することで組織内の共通認識を形成、さらなる効率化を実現します。いままで培った技術を駆使し、生産管理システムのリーディングカンパニーとして業務効率化に貢献していきます。



## 主力製品のご案内

紙器工場向け生産管理システムの開発を行っています。

### ▶ 生産管理ネットワークシステム

**FACNET**  
ファクネット

ファクターの生産管理システムはそれまで捨てられていた(活用されていなかった)情報を拾い集めることで、各生産設備の正確な生産実績を把握し生産性を高めるための課題を明確に示します。またネットワークにより作業現場と事務所を一体化させることで、刻々と変化していく加工機械の稼働状況の全てをFACNETによってリアルタイムに事務所のホストコンピュータ画面上に表示させ工場全体の生産状況を手に取るように把握することができます。

### ▶ 印刷原稿データ化システム

**FACNET Super Scope**  
スーパースコープ

印刷原稿(図面)をデジタル化し、仕様書データ(文字データ)と共にサーバー上に蓄積させ、それらのデータを事務所および生産現場にて自由に閲覧できる画期的なシステムです。マスター原稿を汚すことなく、日々の原稿準備(プリントアウト)からも解放されます。品目ごとの詳細情報を表示し、インク粘度・印版通数・抜型通数・生産メモ・商品メモ・更新履歴などの特記事項登録を行うこともできます。また、クレーム管理として状況写真などの画像を登録し次回生産時に通知することも可能です。

### ▶ 原紙管理システム

**LinX**  
リンクス

先進の原紙管理システムLinXでは、原紙の出入庫および取り切りされなかった原紙残量をリアルタイムに管理し、在庫原紙量を正確に把握できます。適正在庫の管理、残原紙の有効利用はもちろん業務の効率化・省力化によるオペレーターや原紙管理責任者の負担を軽減します。

## 製品一覧

### ▶ 製函工程向けシステム

**FACNET** (生産実績管理)  
**FACNET Super Scope** (印刷原稿デジタル化)

### ▶ 基幹業務システム

**C-BOX** (紙器・段ボール工場向け基幹システム)

### ▶ 工場全般

**Zotti** (多機能表示装置)  
**Genesys** (保全管理)

### ▶ FA 用防塵筐体デコラボックス

**Decola Box** (精密機器保護 FA向け防塵筐体)

### ▶ 貼合工程向けシステム

**LinX** (原紙管理)  
**Felix** (RFID原紙貼合管理)

### ▶ F-COSS (貼合指示支援)

詳しい製品情報はこちら▼



## 会社沿革

- 1968年11月 梱包資材の製造、販売並びに梱包請負業を目的として有限会社三重包装を設立。
- 1986年11月 加藤隆二(現 取締役会長)が、梱包請負業の傍らで、ダンボール製函機械の稼働率計の開発に着手。
- 1987年 3月 ダンボール製函機械の稼働率計が完成し、FACTIMA(ファクティマ)と命名。同年、日光機械製作所、西藤機械製作所より、FACTIMAに対する引き合いあり、それぞれの会社の製函機械に取り付けて、ユーザーへ送り出す。
- 1987年11月 従来単独で稼働していた、稼働率計のネットワーク化による、一元管理システムが完成し、FACNET(ファクネット)と命名。保守業務とコンピュータソフトウェアの開発・販売を開始する。同年、社名を「有限会社ファクター」に変更。紙器工場生産管理システムの開発・販売ならびに保守業務とコンピュータソフトウェアの開発・販売を開始する。
- 1990年 3月 組織変革し、「株式会社ファクター」に社名変更。代表取締役社長に加藤隆二が就任。
- 1992年 3月 株式会社エムバックより、自社開発のダンボール工場向け原紙在庫管理システムLinX(リンクス)のシステムおよびソフト改良を委託され、着手する。同年8月、改良版が株式会社ボギのユーザーダンボール工場にて稼働。
- 1997年 3月 FACNETユーザーのダンボール工場より、コルゲートマシンの貼合編成支援システムの開発を委託される。同年7月、完成して稼働開始。F-COSS(エフコス)と命名。ユーザーの全工場に展開開始。
- 1999年 7月 パソコンスクール開講。同年8月、資本金1,500万円に増資する。
- 2000年12月 (株)新幸機械製作所より、新規ユーザーに導入する印刷機αと事務所OAのオンライン化を依頼され、FACNETにて対応。その後、既存のユーザーにも普及を開始。
- 2007年 1月 印刷原稿データ化処理システムSuperScope(スーパースコープ)誕生。
- 2009年 9月 株式会社ファクター 狭山オフィス 開設。
- 2011年 6月 パソコンスクール閉校。
- 2011年12月 保全管理システムGenesys(ジェネシス)誕生。
- 2013年 9月 RFIDによる原紙および貼合管理システムFelix(フェリックス)誕生。
- 2017年 4月 代表取締役社長に加藤圭一郎が就任。
- 2020年 8月 紙器段ボール製造業向け基幹システム CBOX4.0(シーボックス)リリース。委託開発により販売していた本システムを自社開発に切替え全面刷新。バージョンアップ(再構築)を行う。

## 会社概要

商号/株式会社ファクター FACTOR Inc.  
本社/〒510-0821  
三重県四日市市久保田1丁目1番21号  
TEL 059-352-1461

設立/1987年11月3日  
資本金等/1500万円  
代表取締役社長 加藤 圭一郎

本社ビル

### 取引銀行

・百五銀行 生桑支店 ・北伊勢上野信用金庫 本店  
・三十三銀行 久保田支店 ・中京銀行 四日市支店



導入実績

北海道

合同容器(株)札幌工場/合同容器(株)函館工場/クラヤ紙工(株)

青森県

合同容器(株)青森工場/東北容器工業(株)下田工場/森羽紙業(株)

宮城県

(株)クラウン・パッケージ 仙台事業所

福島県

吉川紙業(株)福島工場/吉川紙業(株)郡山工場  
ダイナパック(株)福島事業所

茨城県

ダイナパック(株)つくば事業所/(株)公和産業 結城工場/新日本ダンボール(株)

埼玉県

日藤ダンボール(株)/ダイナパック(株)川越事業所  
(株)クラウン・パッケージ 埼玉事業所/クラウン紙工業(株)

東京都

(株)公和産業 板橋工場

神奈川

(株)太洋/タイヨー(株)/(株)クラウン・パッケージ 神奈川事業所

千葉県

幸陽紙業(株)/(株)クラウン・パッケージ 東京事業所/武田紙器(株)/(株)杉井工業所

長野県

ダイナパック(株)松本事業所/甲府大一実業 松本紙器工場

山梨県

(株)甲府大一実業 本社

静岡県

大一コンテナ(株)/(株)公和産業 掛川工場/ダイナパック(株)静岡事業所

富山県

北陸紙器(株)

石川県

北陸紙器(株)七尾工場

福井県

(株)ウィルパックニシヤマ/広燃産業(株)/田中段ボール工業(株)  
北陸紙器(株)福井工場

岐阜県

(株)瑞浪エコパック/(株)共進ペーパー&パッケージ 高山工場  
(株)共進ペーパー&パッケージ 中京工場  
クラウン・パッケージ岐阜事業所/土岐ダイナパック(株)

愛知県

エムパック(株)/ダイナパック(株)みよし事業所/ヒラダン(株)  
(株)マンツネパッケージ/中央紙器工業(株)  
豊通ニューパック(株)/(株)クラウン・パッケージ 名古屋 本社

三重県

岡田パッケージ(株)/八木段ボール(株)

奈良県

(株)クラウン・パッケージ 大阪事業所/ザ・パック(株)奈良工場

京都府

五洋パッケージ(株)

大阪府

丸和紙器(株)/三協段ボール(株)

兵庫県

(株)共進ペーパー&パッケージ 加古川工場/ミナトボックス(株)  
(株)ユーパック

徳島県

サンコー(株)

香川県

(株)朝日段ボール/兵庫製紙(株) 四国事業所

岡山県

エフビコアルライト(株)

広島県

広島段ボール(株)

山口県

日之出紙器工業(株)大興製函工場

福岡県

日之出紙器工業(株)小倉工場/日之出紙器工業(株)福岡工場  
日之出紙器工業(株)アートパッケージセンター/太陽インダストリー(株)

佐賀県

(株)JA段ボールさが/(株)クラウン・パッケージ 九州事業所

長崎県

日本紙器(株)

大分県

九州ケース(株)

熊本県

日之出紙器工業(株)熊本工場

鹿児島

串間紙器工業(株)/日之出紙器工業(株)鹿児島工場/エス・ボックス(株)

2023年10月 現在

「見える化」による  
生産性向上を実現します。